

2018年4月15日

福音書からのメッセージ

こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

(ルカによる福音書 24 章 36 節)

イエス様の復活という出来事は、わたしたちにとってなかなか理解しにくいことではないでしょうか。聖書には様々な復活物語が記されていますが、そのような衝撃的なイエス様との出会いがあるかという、なかなかそうはいきません。

ではわたしたちは、イエス様と出会っていないのでしょうか。イエス様はわたしたちのそばには来て下さっていないのでしょうか。

ここである人が書いた詩を紹介したいと思います。「あしあと」という詩です。

ある夜、私は夢を見た。私は、主とともに、なぎさを歩いていた。暗い夜空に、これまでの私の人生が映し出された。どの光景にも、砂の上に二人のあしあとが残されていた。一つは私のあしあと、もう一つは主のあしあとであった。

これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、私は砂の上のあしあとに目を留めた。そこには一つのあしあとしかなかった。私の人生でいちばんつらく、悲しいときだった。

このことがいつも私の心を乱していたので、私はその悩みについて主にお尋ねした。「主よ。私があなたに従うと決心したとき、あなたは、すべての道において私とともに歩み、私と語り合ってくださいと約束されました。それなのに、私の人生の一番辛いとき、一人のあしあとしかなかったのです。一番あなたを必要としたときに、あなたがなぜ私を捨てられたのか、私にはわかりません」

主はささやかれた。「私の大切な子よ。私はあなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。ましてや、苦しみや試みのときに。あしあとが一つだったとき、私はあなたを背負って歩いていた。」



わたしたちは知らず知らずのうちに、イエス様に出会っているのです。イエス様はわたしたちのそばにいて、苦しいとき、辛いとき、動けないときに支え、一緒に歩いてくださるのです。

イエス様は目に見える形で来られるわけではありません。後から考えたら、あれはイエス様だったと思う。その繰り返しではないでしょうか。あの苦しいときを乗り越えたのは、イエス様の導きだったに違いない。偶然だと思っていた出来事は、よくよく考えてみると必然だった。辛く悲しい中、心を包み込んだ温もりは、イエス様がそばにいて支えてくれた、そのぬくもりだった。

その一つ一つの出来事は、説明しようとしてもできるものではありません。復活のイエス様との出会いは、それぞれの人に、それぞれのときに、それぞれの形でおこなわれます。それがイエス様との出会いです。

はっきりと目に見えないかもしれない。すぐには分からないかもしれない。でもわたしたちのそばに、必ずイエス様はいてくださいます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>